

経営協議会開催！ 2022年度事業計画

JR四国労組は、3月11日に開催された経営協議会において、「2022年度事業計画」について会社から説明を受けた。【別紙参照】

2022年度については、安全方針である「安全綱領」の下「安全・安心輸送の確立」に向け全社員がプロ意識に徹し、お客様に安心してご乗車して頂ける体制作りをさらに強化していく。

また、3期連続の赤字経営から脱却できる企業体制づくりにより、黒字経営に転換することを目標に掲げ、生き残りの課題として、間接部門の業務運営の効率化や運行部門と販売部門のコスト削減とも合わせ、基幹的事業である高速バス路線のあるべき運営体制の試行に取り組むほか、補完的事業の模索などにより、地域社会から信頼される企業としてあるべく、強靱な経営体質を目指して取り組む。

具体的には、引き続き安全・安心運転の推進に向けハード、ソフトの両面から取り組み、異常時対応訓練等の充実と災害時の社員等の安否確認システムの活用を進める。さらに、健康起因事故の防止に向けて、健康診断データへの関心度を高めつつ、SASや脳検診を行い、社員等の現況把握に努める。また、ワンランク上の接客サービスの提供を心がけ、継続した研修・トレーニングにより接客レベルの向上を目指すとともに、高速バスの輸送改善等として四国との人的交流拡大を念頭に、ご利用実績の把握により適時適切な施策の実施に取り組む。特に、コロナ禍の影響が続く中での路線毎のご利用状況や収支の動向変化を見いだすことで、適正な運行規模の算出と共同運行会社間での調整を行う。

新型コロナウイルス感染症の影響下における高速バスの輸送改善で導き出された運営体制を構築し、維持するために適正となる人員配置を模索する。輸送原価のコストダウンを図る日常的な取り組みとして、省エネ運転の継続実施や車両の検査・修繕費用の縮減に心がけ定着化を図る。間接部門の業務運営の見直しをさらに推し進めながら、販売部門では販売手段等の変化に応じた適正要員の配置や多能的かつ効率的運営を模索していく。

ローカルバス部門では、地域住民や自治体と連携し、生活路線補助金の支援を受けつつ、路線のご利用実態に即した施策の展開による収支改善の模索に取り組む。

以上

別紙

2022年度事業計画

2022年3月11日

ジェイアール四国バス株式会社

「事業運営の基本方針」

2021年12月の政府月例経済報告では、「景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、このところ持ち直しの動きがみられる。先行きについては、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。また、変異株をはじめ感染症による内外経済への影響や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」と報告されています。

このような状況のなかで、当社は輸送機関の最大の使命である安全・安心輸送を基本に高速バス路線の輸送を中心に取り組みをしてまいりましたが、2021年度決算は、前期に続いて新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2期連続で前期に次ぐ大幅な減収及び当期損失となる見込みです。

こうした背景となる当社の2021年度の主な輸送改善などの概要を振り返ると次のとおりです。

4月後半から通算3回目の緊急事態宣言を受け、高速バスの運行計画を慎重に進める中で、10月にかけて緊急事態宣言が断続的に発表され、雇用調整助成金を利用して社員の待命休職を実施しました。なお、10月1日、緊急事態宣言が179日ぶりに全面解除となり、その後年末年始にかけて新型コロナウイルス感染症は、落ち着きを見せておりますが、引き続き変異株の発生動向に注視する必要があると考えております。

4月からは松山エクスプレス号及び高知エクスプレス号において、「道の駅いたの」の開業に合わせて一部便の乗り入れを開始しました。

8月からは、往復高速バス乗車券にお買物券がセットになった特別企画商品の「ぶらっとバス旅チヨイス」を設定しました。

9月からは新たな収入源の確保として高速バスの車内モニタを利用し、高松エクスプレス大阪号において企業広告を始めました。

また、今年度も昨年度に引き続き、徳島から京阪神便について11月から翌年2月にかけて、ラッピング広告をバス6台に施して実施しています。

6月から順次、販売部門の社員をJR四国グループに出向させています。

経費削減として、7月に運休便の影響により運行見込みの少ない高速バス3両の車検・定期検査を中止しました。

一方、ローカルバス路線では、久万高原線は4月から通勤・通学定期の割引率を高め、併せて「スマホ定期」の導入を行い、利用の促進と利便性の向上に努めました。

また、「松山・砥部一日乗り放題きっぷ」のほか、「平日・土日祝限定久万高原一日乗り放題きっぷ」を2022年3月まで発売期間を延長しました。

8月からは、松山から久万スキーランド高原キャンプ場への往復に便利な「久万BBQ日帰りきっぷ」を新たに設定しました。

9月からは新ダイヤを設定し、平日では松山方面行きの通勤、通学に利用しやすい時間帯に1便増発を行うとともに土休日にも利用しやすい設定としました。

また、大栃線では4月から通勤、通学定期の割引率を全区間において拡大するとともに、5月からは工科大西口から美良布間において、フリー乗降区間の設定を行い、利用の促進と利便性の向上に努めました。また、「大栃線一日乗り放題きっぷ」を2022年3月まで発売期間を延長しました。

9月からは久万高原線、大栃線ともにwebサイトから購入できる、乗り放題きっぷ「1日フリーバス」の発売を開始しました。

販売チャンネルの拡大策として8月に松山バスプラザ、徳島バスプラザ及び松茂バスプラザにクレジットカード対応の自動券売機を購入し、取り換えを行うとともに既存の自動券売機を松山支店及び高知支店へ移設しました。

12月からは久万高原線のwebサイトから購入できる「久万スキーランド往復割引きっぷ」、「松山～砥部1日フリーきっぷ」の発売を開始しました。

2022年2月頃には松山バスプラザ、松山支店及び高知支店に次世代決済端末「stera terminal」を追加導入します。

2022年度については、安全方針である「安全綱領」の下「安全・安心輸送の確立」に向け全社員がプロ意識に徹し、お客様に安心してご乗車して頂ける体制作りをさらに強化してまいります。

また、当社にとって3期連続の赤字経営から脱却できる企業体制づくりにより、黒字経営に転換することを目標に生き残りの課題として、間接部門の業務運営の効率化や運行部門と販売部門のコスト削減とも合わせ、基幹的事業である高速バス路線のあるべき運営体制の試行に取組むほか、補完的事業の模索などにより、地域社会から信頼される企業としてあるべく、強靱な経営体質を目指して次の項目を重点として、取り組めます。

1 安全・安心輸送の提供

お客様から信頼され、安心して選択して頂けるバス事業者の要件としては、最も重要な安全輸送とお客様の目線に立った接客サービスの提供が欠かせないという認識のもと、全社員が「安全綱領」を自分自身のものとしてプロ意識に徹し、引き続き安全・安心運転の推進に向けハード、ソフトの両面から取り組んでいきます。

日常的には、飲酒検知器の適正な使用方法による飲酒運転事故の防止を継続し、自動車事故防止にはドライブレコーダのヒヤリハット映像データを活用することを継続します。

車両については、オートマチック変速機搭載車、安全装置では、衝突被害軽減装置等の標準配備車を活用し、さらに運行管理者がリアルタイムにドライブレコーダの画像を確認できる通信型のデジタルタコグラフ・ドライブレコーダ一体機を高速バス全車に配置したことにより、乗務員指導やリスク管理体制を充実させることとします。

さらに、コロナ感染防止対策、バスジャック、南海大地震、車両火災等の異常時対応訓練を充実させると共に、災害時の社員等の安否確認システムの活用を進めます。

一方、働き方の見直しが課題となるなか、過労防止はもとより、健康起因事故の防止に向けて、日頃から社員の健康管理意識を醸成するため、健康診断データへの関心度を高め、要精密検査の指摘を受けた場合の受診をしようようします。SAS（睡眠時無呼吸症候群）の発症を防止するため、検査体制を維持し、社員等の現況把握に努めます。また、脳検診については、2021年度から対象年齢を5才引き下げて35才以上の該当者に実施しています。60歳以降の雇用継続を見据えて、高年齢での体調の変化を捉えた観点からの指導を行います。

2 お客様が喜ぶことの実践

全社員が「お客様が喜ぶこと」を念頭に、ワンランク上の接客サービスの提供を心がけ、「接客サービスの心構え」を日常的に意識し、あわせて継続した接客サービス研修や接客サービストレーニングにより接客レベルの向上を目指します。

「つばめボックス」に投稿されるお客様のご意見、ご要望に迅速・きめ細かく対処するとともに、各種施策に反映させ、良質で特徴ある企業イメージの醸成に結びつけます。

3 高速バスの輸送改善等

当社の高速バス部門は、基幹的事業であるとの認識を深め、さらに高速バスの利用増は、四国との人的交流を拡大することに結びつくことを念頭に、高速バスのご利用実績の把握により適時適切な施策の実施に取り組めます。

特にコロナ禍の影響が続く中での高速バス路線毎のご利用状況や収支の動向変化を見いだすことで、適正な運行規模の算出と共同運行会社間での調整を行うこととします。一方、「高知中央インター」バス停を利用するお客様の増加を図る目的で、高知中央インター高速バス専用駐車場に関するCM放映などを行い、高速バスの利用喚起を図ります。

4 高速バスのご利用動向を見据えた事業運営の効率化の模索

新型コロナウイルス感染症の影響下において、高速バスの輸送改善において導き出された運営体制を構築し、維持するために適正となる人員配置を模索することとします。

事業運営に付帯する輸送原価のコストダウンを図ることの日常的な取り組みとして、日頃の省エネ運転の継続実施や車両の検査・修繕費用の縮減に心がけ、定着化を図ります。

事務部門の縮小の取り組みが継続してきた中で、間接部門の業務運営の見直しをさらに推し進め、一方の販売部門については、利用環境が変化している乗車券予約受付や販売手段の変化に応じた適正要員の配置や多能的かつ効率的運営を模索していきます。

社員一人ひとりがマイカンパニー意識のもと、コスト削減と収益拡大に結びつく施策はもとより、企業存続を可能とする企業体質作りを目指すことに取り組みます。

コロナ禍の影響を受け高速バス事業運営には態様の変化が求められるところであり、当面の市場環境に照らし事業規模の縮小が課題となります。

これに伴う働く場の確保を社外に求める必要については出向を適用しているところです。引き続き状況に応じた展開が想定されることから社員の自覚と認識を求めます。

5 人材の育成等

本社支店間での各種情報の伝達による連携の強化やコンプライアンス重視の組織風土づくりに努めるとともに、社員意見発表や提案活動への積極的な参加奨励による活性化はもとより、パワフルサークル活動の活性化を通じて、社員が自主的、積極的に会社の経営に関心を持ち、自ら考え、改善の行動に移していく、風通しのよい社風づくりを推進し、これらの環境を整える観点から、社員研修を実施することで、当社で勤める会社人としての意識改革を図ることとします。

また、将来の管理職等の育成に心がけ、候補者層の教育指導の研修を模索していきます。

一方、定年後の再雇用については、働き方の選択肢を設定することに取り組みしてきましたが、さらに労働条件の検討を行う中で、働きやすく、働きがいのある職場環境づくりを進めます。

改正高年齢者雇用安定法に定められた70才までの高年齢者就業確保措置を講じることについての事業者の努力義務については法改正の趣旨を理解し、引き続き検討を重ね適切に進めます。

6 ローカルバス部門及びその他部門の事業展開

ローカルバス部門については、地域住民や自治体と連携し、生活路線補助金の支援を受けつつ、路線のご利用実態に即した施策の展開による収支改善の模索に取り組みます。

その他部門の事業展開は事業の開拓が難しい状況ではありますが、課題としていく中で、現状の駐車場、広告などによる小規模の収入確保を維持していきます。

2021年度決算見込計画及び2022年度事業計画について

会社名 シェアール四国バス株式会社
(単位:百万円、単位未満切捨)

項 目	2021年度事業計画	2021年度決算見込 (A)	2022年度事業計画 (B)	増減	対前期比	記 事
				(B-A)	(B/A)	
営業収益	1,548	1,263	2,314	1,051	183.2	
乗合収入	1,427	1,161	2,177	1,016	187.5	
一般線	58	50	54	4	108.0	ローカル利用増
高速線	1,369	1,110	2,123	1,012	191.3	京阪神便等増
運輸雑収入	121	102	137	34	134.3	発売手数料15、駐車場収入11 その他雑収入等8
営業費用	2,583	2,193	2,341	148	106.7	
人件費	975	902	848	△ 53	94.0	人単差等(役員報酬△1、社員△32、契約社員△20)
動力費	213	199	302	102	151.8	軽油単価差0 (@105.0→@105.0=@0.0)、 業務量差等102(走行千* ₉ 9,860→10,520=660)
業務費	904	626	796	170	127.2	道路使用料88、施設使用料31、発売手数料等51
修繕費	168	128	128	0	100.0	修繕波動等
諸 税	8	8	8	0	100.0	固定資産税減等
減価償却費	312	328	257	△ 70	78.4	営業用自動車償却費減等
営業損益	△ 1,034	△ 929	△ 26	903	—	
営業外損益	195	151	40	△ 111	26.5	雇用調整助成金・コロナ対策補助金等△111
経常損益	△ 839	△ 777	14	792	—	
特別損益	0	0	0	△ 1	—	補助金等△1
税引前当期利益	△ 839	△ 776	14	790	—	
法人税、住民税及び事業税	△ 6	△ 95	11	106	—	
法人税等調整額	2	0	0	0	—	
当期利益	△ 834	△ 681	3	684	—	